



『高齢社会・「減価償却済み人間」の演出』

SAM広島支部長
(株) ロジタント
代表取締役 吉田 祐起

名目上の「生産年齢者人生」を「修了」した昨年10月以来、私は一応高齢者に「入学」です。

中曽根元総理ではありませんが、「減価償却済み人間」ではあると思うのです。でも、企業会計原則で言えば機械設備の減価償却後の有効利用がホンモノの儲けであるように、ニンゲンさまの人生もそうだと思って精進しているところです。

現役時代にどんなに地位や名誉や財産を獲得しても、早死にしたり晩年人生なかんずく、末期が哀れだとしたら決して幸せな人生だったとは言えません。哲学者カントの死に際の言葉“Es ist gut!”（これでヨシ!）とありがたいものです。

それにしても、なんと晩節を汚す人たちの多いことでしょう。企業人、官僚、政治家の先輩諸氏です。帝王学を学んだはずの人たちのあのサマはニンゲンの性（さが）か、「生理現象」かも知れません。19世紀ビクトリア時代のイギリスの道徳家、歴史家、自由主義者のアクトン卿の言葉、“Power tends to corrupt and absolute power corrupts absolutely.”（人は権力を持つと墮落しやすい。そして独裁的な権力を持つと必ず墮落する）は、「終わりを慎むこと始めのご

とくなれば、則ち敗るることなし」（老子）に通じます。

ところが、かく言う私は片足を現役世界に、一方のそれは減価償却後人生を「余生」でなく、「与生&世生」を願って応分の仕事に精出しています。

現役世界と言えば、つい最近、米国の運送会社社長が私を頼って来日しました。日本市場への進出を狙ってのことです。私が提唱するこの業界の規制緩和に期待を寄せているのです。

定年後人生での活動分野が広がりつつあるのが嬉しいのです。その一つは「健康・生きがいきりアドバイザー」という厚生省所管の公的資格と、その組織活動です。広島県内で協議会を設立して会長職を勤め（させられ）ています。「こころ豊かで活力ある社会づくりに奉仕します！」のキーワードで頑張ってます。

先日お年寄りの生涯学習「寿大学」の開校式でお話しました。与えられた演題は「人生の花を咲かせよう!」でした。先輩諸氏を前に有言実行のわが人生体験談を頼りの講演活動ですが、自粛自戒の心を失うことなく、精一杯に生きてマス!